

はじめに

社会の変化が加速度を増し、複雑で予測困難な時代を迎える中、次代の社会を形成する子どもたちには、感性を豊かに働かせながら、自らの可能性を発揮し、よりよい社会と幸福な人生の創り手となる力を身に付けることが求められております。

そのため、学校教育においては、ICT環境を効果的に活用し、子ども一人一人が自由な発想で端末を活用する「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に生かすことや、子どもの学習状況に応じた教材を提供し、知識・技能の習得等に効果的な学びを行うことなどを通して、子どもたちに未来社会を切り拓くための資質・能力を一層確実に育成することが重要です。

こうしたことから、本手引では、教科等横断的な視点で情報活用能力などを育むための教育課程の改善や、各教科等において「個別最適な学びと協働的な学び」を一体的に充実していくための指導の在り方など、ICT環境を最大限に生かすカリキュラム・マネジメントの充実に向けた取組について、具体的に示したところです。

各学校におきましては、校長のリーダーシップの下、校内研修等において本手引を活用するなどして全教職員で教育課程の実施状況を検証し、今後の改善策等について共通理解を図るなど、誰一人取り残すことなく、子ども一人一人の可能性を最大限に引き出す質の高い教育活動を更に推進していただきますようお願い申し上げます。

令和5年3月

北海道教育庁学校教育局義務教育課長 新 居 雅 人